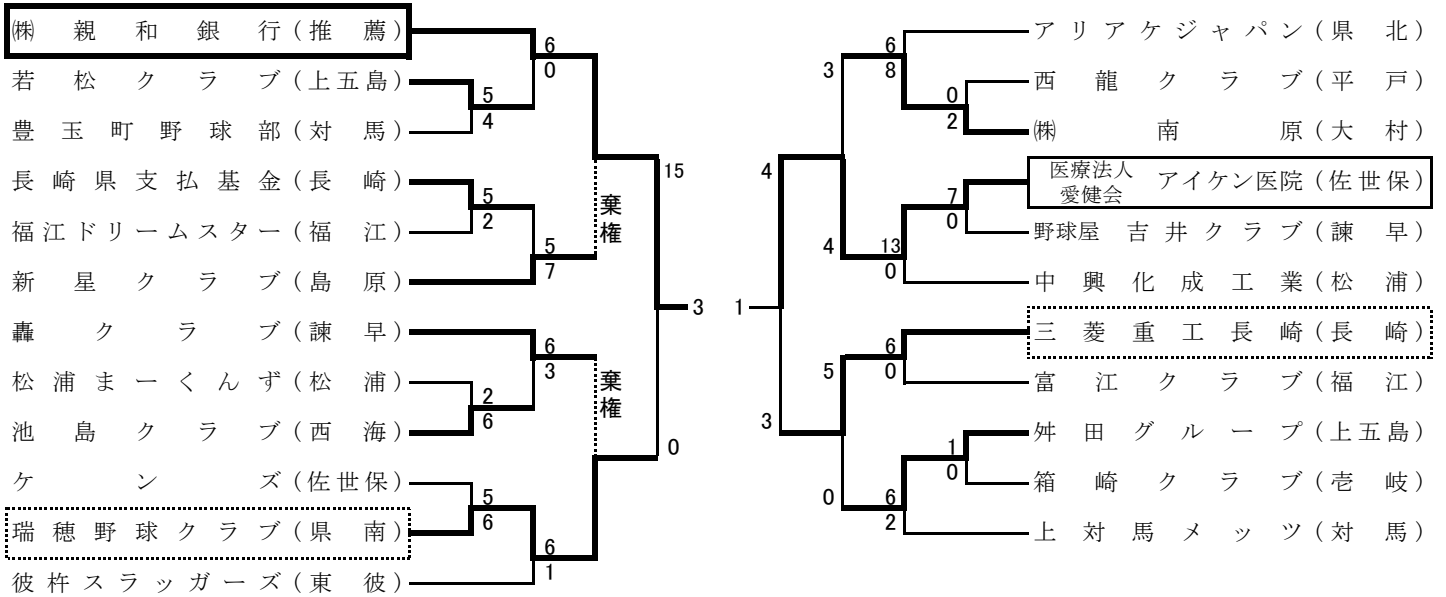


2年連続で県内公式戦無敗の親和銀行が20回目の優勝

第60回長崎県軟式野球選手権大会

会期：平成22年10月23日(土)～25(月)

会場：A・ビッグN B・諫早市営 C・長崎市営 D・三菱球場



第60回大会は、記念大会として県連盟15支部より支部内に11チーム以上の一般登録チームがある、長崎、佐世保、諫早、松浦、福江、上五島、対馬の7支部より1チーム増参加の22チー

ムに加え前年度優勝で推薦出場の親和銀行を含めた計23チームが参加して午前8時半の選手入場行進より開幕。試合は第一日に4会場を使用して二回戦の計15試合が行われた。



開会式では前年度優勝の親和銀行より優勝旗と優勝杯が、準優勝の三菱重工長崎より準優勝旗が返還されたあと、八江利春県軟式野球連盟会長があいさつ。選手宣誓は各地区代表旗に囲まれて下川大輔・親和銀行主将が行なった。

審判団は長崎市連盟審判部に加えて県下各支部より1名ずつが派遣され、第一日の長崎市会場での11試合は実戦形式による審判技術研修会が初の試みで行われた。



【一回戦】かきどまり(第1試合) 振球犠盗失残併

南原	002 000 0	2	5	8	3	0	1	9	0
西龍クラブ	000 000 0	0	8	1	0	1	2	6	0
【南原】打安点									
⑥宮崎 義則	1 0 0	②大石 航	2 0 0						
⑦長野 剛	4 0 0	④土肥 生実	3 0 0						
⑤川原 雅敏	2 0 0	⑥①正木 康寛	3 0 0						
③大平 力	2 0 0	⑤小田 典和	3 1 0						
⑨山口 晃司	3 0 0	⑧川久保辰郎	3 0 0						
9鹿子木 優	0 0 0	①⑥古川 博人	3 1 0						
②上野 浩司	3 1 0	③今里 匡志	3 1 0						
⑧田中 卓磨	2 1 0	⑦井手 伸幸	3 0 0						
①山本 真星	2 0 0	⑨井手 勇樹	3 1 0						
④田中 祐典	2 0 0		26 3 0						
	21 2 0								

開始 10:05
 前年の59回大会に選手権初出場し、まだ片目が開かない両チーム同士の対戦だったが、南原が県選手権初勝利を挙げた。
 三回の南原は先頭の宮崎が死球。一死後に連続四球で満塁とし山口の打球は敵失を誘って二者が還った。南原はこの試合に8四死球を得、四回を除いて毎回のように入塁圏に走者を置いたが、効果打が出ず相手の投手と守備陣に助けられた試合展開だった。
 対する西龍クは二回に先頭の井手が三遊間突破し、二死後に今里が右中間打の一三塁を逸すると、三回にも先頭の井手勇の安打に続いて死球と敵失の無死満塁も中軸が三者凡退に倒れ無得点に封じられた。

【その他の登録選手】南原=(監)南原寛人、城野修造、里隼人、田中譲、一ノ瀬圭太、森直樹、水口亮、田中浩二
 西龍=(監)小田典和、古川歩、吉田亮、大山祐也、近藤大志、猪口泰孝、井手口芳人、小野祐志、松崎啓太、浦田周志、伊藤孝幸、前川常太郎

【一回戦】かきどまり(第2試合) 振球犠盗失残併

野球屋 吉井クラブ	000 00	0	3	1	0	0	1	2	0
愛健会アイケン医院	100 24x	7	3	8	0	3	0	6	0
【吉井ク】打安点									
④大津 修一	2 0 0	⑧鶴我 公一	3 0 0						
⑧野中 誉文	2 0 0	⑨朝山 俊也	2 0 0						
⑥大坪 俊一	2 0 0	⑦當間 敦	0 0 0						
③辻 隆豪	1 0 0	②松原 大樹	3 2 1						
②馬場 竜真	2 0 0	⑤田中登志夫	3 0 0						
①大場 康夫	2 1 0	③向山 豪	1 0 0						
⑦竹平 昌史	2 0 0	H島田 尚悟	0 0 0						
⑨榎谷 太郎	2 0 0	①城井 貴文	3 1 2						
⑤北村 康久	1 0 0	④切間 勝	2 1 2						
	25 1 0	⑥林 孝太郎	1 0 0						
			18 4 5						

開始 11:59 (5回コールドゲーム) 【三】松原、切間
 アイケン医院がA級の貫禄でC級の野球屋・吉井クを五回コールドに仕上げた。吉井クの先発・大場は初回に連続2三振を奪う好調さを見せたが、四球後に松原から左中間に三塁打を浴びた。大場は三回二死から連続四球の一三塁を松原を打ち取ってエースの意地は示したが、四回に3死四球を与えた二死満塁に味方の失策で加算された後に暴投を犯して2失点。五回には松原の右前打を間に2四球の一死満塁に城井に2点適時打、更に切間の左越え三塁打で7点差を付けられてマウンドを降りた。
 アイケン先発の城井は打たせて取る投法で四回まで内野ゴロ4に内飛4外飛1三振3のパーフェクト。五回先頭に四球を与え、大場に中前打を喫し一死一三塁を招いたが後続を斬って、選手権初出場の野球屋吉井クラブに得点を与えなかった。

【その他の登録選手】吉井=(監)馬場洋介、西尾洋一、松崎耕二、東義和、田中巖、東別府正人、林田賢祐、相庭正晴、早田昌弘、土井淳一、宮崎慎吾
 アイケン=(監)森内嘉則、江口慎也

【一回戦】三菱球場(第1試合) 振球犠盗失残併

箱崎クラブ	000 000 0	0	4	1	0	0	0	3	0
舂田グループ	010 000 X	1	4	0	0	1	2	1	1
【箱崎ク】打安点									
⑥富田 晋佑	3 0 0	⑥江口 旭	3 0 0						
⑤田山 和樹	3 0 0	④大水 翔	3 0 0						
⑧川崎 和則	3 0 0	③原田 洋平	2 0 0						
②丸尾 崇仁	2 1 0	⑤木下 寛輝	2 0 0						
③小西 真二	3 0 0	②岡本 大介	2 1 0						
④森島 弘己	3 0 0	⑦佐々野裕樹	2 1 0						
①浜尾 和幸	2 0 0	⑨犬塚竜之介	2 1 1						
⑦植村 祐司	2 0 0	①三宅 亮一	2 0 0						
⑨富田 大喜	2 0 0	⑧酒井 公大	2 0 0						
	23 1 0		20 3 1						

開始10:00 1時間6分
 2枠参加の上五島支部の舂田グループと壱岐の箱崎クラブ。離島同士の対戦はワンチャンスを生かした舂田が最小得点で逃げ切った。
 舂田は二回一死から岡本が中前打。二盗を決めた二死二塁に犬塚が中前に転がして先取点を挙げた。その後は五回に先頭の佐々野が安打で出るも二盗死するなど三人ずつで攻撃を終えた。
 対する箱崎クも得点機は二回。先頭の丸尾が三遊間を抜き、小西の投ゴロで二進。浜尾が敵失で生きた二死一三塁の先制機を逸したのが響いて、3年連続6回目の選手権で2勝目を挙げられなかった。

【その他の登録選手】箱崎=(監)小川和伸、吉野泰治、眞鍋将吾、前田優也、池上祐一郎、丸尾一樹、松嶋孝徳、山田竜巧、小田代英之、土屋大輔、加藤陽介
 舂田=(監)濱崎秀明、濱崎新、中根拓人、石橋剛、山田明人、蔭山喜孝、石田考二、舂田裕太、湯川紀之、平田勇夫、宗健太郎

【二回戦】ビッグN(第3試合) 振球犠盗失残併

若松クラブ	000 000	0	5	1	1	0	0	5	0
親和銀行	401 001	6	4	7	0	12	0	5	0
【若松ク】打安点									
⑧鶴瀬 貴弘	3 2 0	④鳥越 章弘	3 1 0						
⑥吉村 直純	2 0 0	⑤木崎 達也	1 0 0						
①山下 翔也	3 0 0	5平野 晃一	3 0 0						
⑤白石 信憲	2 0 0	⑨三丸 賢司	2 1 0						
⑦高山 賢次	3 0 0	9向田 隆	1 0 0						
⑨濱端 大輔	2 1 0	⑦下川 大輔	3 1 2						
9宮原 雄大	0 0 0	②吉田 光太	1 0 0						
③笹山 一茂	2 0 0	2古賀 太一	1 0 0						
②荒木 秀徳	2 0 0	③内山 大輔	2 0 1						
④村井 和彦	2 0 0	⑧桑原 隆	1 1 0						
	21 3 0	①東川 賢輔	1 1 1						
		H野村健太郎	1 0 0						
		⑥大石 将人	2 0 0						
			22 5 4						

開始12:58 1時間31分 (6回時間切れ) 【三】濱端、鶴瀬
 初回の親和銀行は安打の鳥越と三丸を二三塁に置いて下川の2点適時打に、四球や暴投、捕逸などで4点を先取。三回には二死から安打と二盗の桑原を東川が中前に弾いて還し追加。六回は死球の桑原が二三盗後に捕逸で還り、規定により時間切れとなった。
 第1試合で逆転勝利した若松クラブは、8年前の第52回大会以来の親和銀行との対戦。得点機は前半に三度あった。初回は三振振り逃げと四球の二死一三塁。二回は先頭の濱端が右中間三塁打したが続く遊ゴロで本塁を突き憤死。三回にも先頭の鶴瀬が左中間突破の三塁打で出るも後続が無く、5年ぶり3度目の選手権で2勝目は挙げたが、又も親和銀行に封じられた。

【その他の登録選手】親和=(監)原田和寛、林田大輔

【二回戦】ビッグN (第4試合) 振球犠盗失残併 開始14:39 1時間31分 (5回時間切れ)

新星クラブ	300 40	7	2	4	0	1	0	2	0
長崎県支払基金	000 41	5	8	4	0	2	1	6	1

【三】本田、宮本、増田
【二】内島

【支払基金】 打安点

⑤	松本	豊	3	1	0
⑧	千住	剛	3	1	2
⑦	大隈	康治	2	1	0
③	川辺	剛	2	0	0
②	宮本	秀樹	2	2	0
⑨	増田	雄真	2	1	1
⑥	石本	拓也	3	1	0
④	中川	潤	3	0	0
①	菅藤	秀樹	1	0	0
1	平野	義和	1	1	1
			22	8	4

【新星ク】 打安点

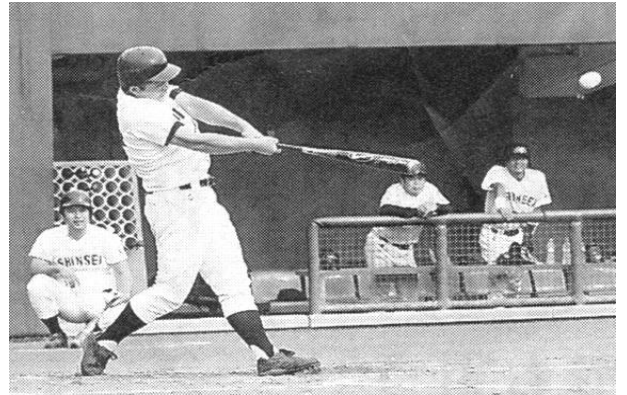
④	松崎	淳	2	1	1
⑥	吉岡	浩作	2	0	0
⑦	林田	健吾	3	0	0
⑤	内島	範喜	3	1	2
①	北浦	秀徳	3	0	0
②	井元	教介	3	1	0
③	中棚	敦士	1	1	1
⑨	石本	竜次	1	0	0
⑧	本田	貴志	2	1	3
7	松尾	和彦	0	0	0
			20	5	7

新星クに効果的な長打が出て追いすがる支払基金を振り切った。初回先頭から連続四球で得た一死二三塁で内島の左越え二塁打で2点先取(写真)。さらに中棚の右適時打で優位に立った新星クの四回は井元の内野安打と四死球の無死満塁に本田が右中間を抜き走者一掃すると、松崎も右に連打して7点差をつけた。

対する支払基金は初回二死後に連続四球と宮本が安打の満塁を逸すると、二回と三回にも得点圏走者を生かせず、7点差を追う四回に先頭の宮本が三塁打。返球が乱れる間に還ってまず1点。四球と暴投の二死二塁から平野、松本、千住の3連打で4点を返した。さらに五回は四球の宮本を増田の三塁打で還したが追撃もここまで。5回終了時で制限時間をオーバーした。

県支払基金は2年前の第58回大会が初出場ベスト4。二度目の出場は上位進出がなかった。

新星クは英語に訳すと「ニュースター」。第1回県選手権大会から島原・南高地区代表で出場し、第3回と6回の計3度の選手権出場があり、言わば「老舗球団」。新星となって平成13年(第51回)以来二度目の選手権出場。



一回表新星ク一死二三塁、内島が左越えに2点二塁打
=写真は長崎新聞紙面より抜粋=

その他の登録選手

(監)石本英雄、島田和彦、坂本裕介、園田大輔、松崎茂、猿渡忠敬、吉中健市、石山周一、山村正雄

<参考>チーム内に60歳以上の登録者が4名。

- 64歳=石本英雄
- 61歳=吉中健市
- 60歳=松崎茂、山村正雄

【二回戦】諫早市営 (第3試合) 振球犠盗失残併

轟クラブ	000 014 1	6	5	0	1	3	1	4	0
池島クラブ	000 300 0	3	4	2	0	2	3	3	0

5年前の第55回大会から北高支部が消滅した。その前年まで北高支部の常連として第29回(S. 54年)の北高支部誕生からの26年間で14回(13勝)の出場を誇る轟クラブが、6年ぶりに選手権出場し逆転で準々決勝に進出した。五回に三ゴロ悪送球で三進した平野が松永の遊ゴロで還り反撃開始。続く六回は捕ゴロ悪送球に乘じ木下が内野安打の二三塁に立川の二ゴロでソツなく加点すると、西村の右線二塁打で同点に。山口も中前打で続いた一三塁から木戸の左犠飛に平野の右中間三塁打でアッサリと逆転。七回は安打と二盗の堀が二死後に立川の二飛失で還った。

池島クラブは第1試合に勝利しての連戦。二回の一死一三塁を重盗失敗で逸した後の四回に、連続内野安打の二者を森本の3ランで優位に立ったが、連投の石井が後半になって味方の拙守をきっかけに痛打を浴びて連勝はなかった。

【轟ク】 打安点	【池島ク】 打安点
⑨ 堀 将太	4 1 0
④ 木下 健志	4 1 0
⑥ 立川 宏輔	4 0 1
⑧ 西村 卓也	4 2 1
⑤ 山口 純一	3 2 0
③ 木戸 豊	2 0 1
3 桶屋隆友樹	0 0 0
⑦ 平野 優	3 1 1
② 松永 定彦	3 0 1
① 野副 龍太	2 0 0
1 境田 正文	1 0 0
30 7 5	

その他の登録選手

轟=(監)佐藤公彦、川根知也、伊達諒、神谷暁、尾崎仁士、松本健吾、里山公一、本村祐樹、本田宏輔

【二回戦】諫早市営 (第4試合) 振球犠盗失残併

瑞穂野球クラブ	010 100 4	6	3	3	3	0	2	6	0
彼杵スラッガーズ	001 000 0	1	6	0	1	0	2	4	0

【三】大塩 【二】上田、親泊、相良、大場

一回戦に続いてC級の瑞穂がB級を倒した。二回、先頭で中越え三塁打の大塩と酒井が一死後にスクイズを敢行して先制の瑞穂は、同点とされた四回に又も先頭の大塩が右前打。座間味の右線打が後逸の間に大塩が一気に還って再び1点リード。座間味は三塁を陥れたが憤死した。だが七回にビッグイニングを作った。まず先頭の上田が中越え二塁打しバント三進後に暴投で生還。二死後に吉弘の死球を間に、若杉、飯干、平田、大塩が連安打してこの回に4点を奪った。

彼杵は前身の田川スラッガーズで選手権初出場(第28回=S53年)以来、東彼支部代表として3年連続12回目の県選手権だったが、3本の二塁打を放ちながら実となったのは三回に先頭の親泊が左越えしたのを本山が一二塁間を抜いて還した1点のみで、四回一死後の相良の左越えと、五回に先頭大場の中越え打は後続が無く8回目の初戦敗退で5勝目はなかった。

【瑞穂】 打安点	【彼杵】 打安点
⑥ 若杉 亮	3 1 0
⑦ 飯干 悟	3 1 0
③ 上田 貴士	3 0 0
4 平田 拓也	1 1 1
④③ 吉弘 真志	3 0 0
⑧ 大塩 学	4 3 2
① 座間味 功	4 1 0
⑨ 酒井 涼一	1 1 1
9 上田 智也	1 1 0
⑤ 端倉 洋平	2 1 0
② 野口 幸一	2 0 0
27 10 4	

その他の登録選手

彼杵=(監)金谷善壽、田中信之、三根圭太、浪瀬誠司、和田翔、浦修一、本山博史、木場健一、福田邦彦、後瀬学

【二回戦】かきどまり(第3試合) 振球 犠盗失残併

南原	100 000 025	8	6	9	0	0	1	16	0
アリアケジャパン	001 000 023	6	4	1	3	0	3	6	0

【二】副島

【南原】打安点	【アリアケ】打安点
⑥ 宮崎 義則 5 0 0	⑥ 中本 翔太 3 1 1
⑦ 長野 剛 4 0 0	④ 田中 拓朗 3 0 0
⑤ 川原 雅敏 3 1 2	③ 副島 健太 4 2 2
③ 大平 力 3 1 1	⑦ 山邊 祐二 4 0 0
⑧ 田中 卓磨 5 2 1	② 河内 竜二 4 0 1
④ 里 隼人 4 2 2	① 久保 智明 3 0 0
⑨ 山口 晃司 2 1 1	R9 山崎 大稀 0 0 0
① 森 直樹 5 0 0	H 福田 亮平 1 0 0
② 鹿子木 優 5 0 0	⑧ 山下 竜也 3 0 0
	⑨1 末永 駿也 3 1 0
	⑤ 住吉 良 1 0 1
	29 4 5

その他の登録選手

(監)池田克樹、松本康之、山口竜輔、松本貴士、津田勇太、酒井洋輔、池原秀樹、松田慶亮

開始 13:30 2時間14分 (延長8、9回は無死満塁制)

南原は初回到長野が四球の二死二塁に大平の中前適時打で先制したが、三回到二死三塁走者を二ゴロ失で還して同点とされた。

1-1で同点の無死満塁制延長の八回は里の2点タイムリーにより先制するも、その裏の一死後に四球押し出しと犠飛により再び同点とされた。九回になって遊ゴロ本封後に川原の2点打に暴投と田中の適時打や死球押し出しなどで5点を奪い、その裏のアリアケジャパンを副島の2点二塁打と内野ゴロによる失点だけに抑えて逃げ切った。

南原は七回までに三者凡退は二回の一度だけで、3安打6四死球3敵失を得ながら1得点。残塁は10個と拙攻続きだったがアリアケジャパンも七回までに3安打散発に四度の三者凡退では追加点も望めず、延長九回で息切れし、2年連続三度目の県選手権大会は初戦で消えて、通算2勝3敗。

【二回戦】かきどまり(第4試合) 振球 犠盗失残併

中興化成工業	000 00	0	7	4	0	1	5	5	0
愛健会アイケン医院	840 1X	13	1	8	2	1	0	4	1

【中興】打安点	【アイケン】打安点
⑥ 川崎 賢二 3 0 0	⑧ 鶴我 公一 3 1 3
④ 長嶋 悌 2 0 0	⑨ 朝山 俊也 2 0 0
⑨ 湯村 泰介 1 0 0	⑥ 林 孝太郎 2 0 0
⑤ 北川 直樹 2 0 0	② 松原 大樹 2 2 2
③ 久保 光弘 2 0 0	⑦ 島田 尚悟 1 0 0
⑧1 渡部 剛士 1 0 0	⑤ 田中登志夫 3 0 0
8 川添 裕生 1 0 0	③ 向山 豪 2 1 2
② 松浦 智士 1 1 0	3 江口 慎也 1 0 0
⑦ 野元 太介 2 0 0	① 城井 貴文 1 0 1
①81 峯 勇也 1 0 0	1 當間 敦 0 0 0
	④ 切間 勝 2 0 1
	19 4 9

その他の登録選手

前田翔平、関本陽一、浜渦 陽、山田智嗣

開始 11:59 1時間11分 (5回コールドゲーム)

【本】鶴我 【三】向山 【二】松原
松浦地区から最多の12回目出場となる中興化成工業は3年ぶりの県選手権。だが4年連続6回目の出場で通算12勝を挙げているアイケン医院の前に五回コールドで屈した。放った安打は二回二死後に監督の松浦が左に弾いたもので、得点圏に走者を置いたのも三、四回の二度きりで後続がなかった。

アイケン医院は中興先発の乱調に乗り、連続四球を犠打で二塁とし松原の2点二塁打が口火となり、敵失を間の2四球で押し出し、タイムリーエラーに打者一巡した鶴我の3ランなどで一挙8点を初回に奪った。二回にも先頭から連続四球後に向山の2点三塁打に犠飛や敵失で4点を加え、四回にも2敵失に恵まれて加点した。

【二回戦】三菱球場(第2試合) 振球 犠盗失残併

富江クラブ	000 000 0	0	3	2	0	0	0	3	0
三菱重工長崎	201 120 X	6	4	6	1	2	0	5	0

富江支部から2枠出場した富江クラブは3年連続16回目の選手権だったが三菱重工の壁は厚く、五回二死後に四死球を間に代打田原が安打の二死満塁を作ったのが唯一の得点機も後続が無く封じられた。

三菱重工は初回到2点、三回、四回到1点ずつと小刻み加点すると五回には先頭の島田以下が4安打を集中し四球押し出しなどで2点を奪った。

開始11:22 1時間22分

【富江ク】打安点	【三菱重工】打安点
⑧ 山口 綾太 3 0 0	⑨ 島田 嶺 2 1 0
⑨ 小西 康太 3 0 0	H 大場慶太郎 1 1 0
⑦1 有川 恭平 3 0 0	9 榎園 将之 1 0 0
③ 山戸 貴光 3 0 0	⑧ 福 翔馬 4 1 1
①7 福山 佳洋 3 0 0	⑥ 平野 靖 1 1 1
④ 福山 良太 2 0 0	⑦ 永田 勝敏 3 1 0
⑨ 芳野 拓 1 0 0	7 宮崎 剛 0 0 0
H9 田原 亮 1 1 0	③ 坂田 竜徳 2 1 2
② 岩田 章吾 1 0 0	3 藤野 寿幸 1 0 0
⑥ 福山 昭平 2 0 0	② 大田 智成 2 1 0
	④ 永尾 竜太 1 0 1
	① 守田 和博 1 0 0
	1 市山 啓太 1 1 1
	H 久米 聡史 1 0 0
	1 久家 隆史 0 0 0
	1 山口 宰 0 0 0
	⑤ 原 征一郎 1 0 0
	22 8 6

その他の登録選手

富江=(監)三尾重則、田中亮
舛本貴史、岩田克彦
坂本雅俊、真鳥秀雄
片町健太
三菱=(監)中村勉、井芹俊輔
清水優一郎

【二回戦】三菱球場(第3試合) 振球 犠盗失残併

上対馬メッツ	011 000 0	2	7	1	0	0	3	4	0
舛田グループ	202 200 X	6	2	2	0	3	1	4	0

【本】濱崎 【二】野方、佐々野

上五島支部には16、対馬支部には13の一般チーム登録があり、第60回記念大会の特別枠として、両離島から2チームが参加してきたが、軍配は上五島に上がった。

初回一死後に濱崎の右中間2点本塁打で先制した舛田グループは、同点とされた三回到四球と敵失の走者を岡本の適時打と原田の内野ゴロによる送球の間に挙げた点で突き放した。四回にも佐々野の左越え二塁打と敵失の二三塁に酒井の二ゴロと江口のタイムリー打で点差を広げた。

9年ぶり3回目出場の上対馬メッツは二回、死四球で得た二死一二塁で小島が右前に転がし1点差。更に三回には左中間二塁打の野方を財部が中前に弾いて還し同点とした。だが四回以降は三者凡退に終って、3回目の選手権でも白星が挙げられなかった。

開始 12:58

1時間32分

【上対馬】打安点	【舛田】打安点
③ 板井 将之 3 0 0	⑥ 江口 旭 3 1 1
④ 平間 友則 3 0 0	④ 大水 翔 3 0 0
⑥1 野方 靖志 3 1 0	⑨ 濱崎 新 3 1 2
⑦ 小宮 光 3 0 0	② 岡本 大介 3 1 1
①9 財部 晃 3 1 1	①3 原田 洋平 3 1 1
⑧ 浦崎 亮真 2 0 0	③1 湯川 紀之 2 0 0
⑨ 原 泰彦 1 0 0	⑦ 佐々野 裕樹 3 1 0
6 武南 勝彦 1 0 0	⑤ 舛田 裕太 3 0 0
H 岡田 司 1 0 0	⑧ 酒井 公大 3 0 1
② 扇 則昭 1 0 0	26 5 6
H 高田 博信 1 0 0	
⑤ 小島 圭祐 2 1 1	
H 白浜 恒之 1 0 0	
	25 3 2

その他の登録選手

上対馬=梅野恭平、扇博祝、河本法満、米田周一、石橋直也、米田宏之

大会第2日の10月24日はビッグNスタジアムと、かきどまり野球場で準々決勝、準決勝の6試合を行なう予定であったが未明からの降雨。午前中も間断無く降り続いたが、小康状態となった正午前に大会本部が決断し、ビッグN会場での2試合を行うこととし、かきどまり会場

の試合は翌日(月曜日)に順延とした。その順延試合を、新星クラブ(島原)と轟クラブ(諫早)が棄権したために、親和銀行と瑞穂クラブ(県南)が不戦勝となって、準決勝進出を決めた。

【準々決勝】ビッグN(第1試合) 振球犠盗失残併 開始 12:28

南原	300 000 0	3	8	4	1	0	0	4	0
愛健会アイケン医院	200 000 2x	4	3	3	1	2	0	5	0

【三】鶴我
【二】島田

アイケン医院が見事な逆転サヨナラ劇を見せた。1点差を追う七回裏のアイケンは一死後に代打の江口が死球。林が二ゴロに倒れた二死二塁で鶴我が右越え三塁打が飛び出し同点。続く朝山の一ゴロが内野安打となり鶴我がサヨナラの本塁を踏んだ。

初回の南原は宮崎が三遊間を突破。長野、大平が四球の一死満塁に田中の一ゴロでバックホームは宮崎の足が勝って野選で先取点。上野の左前打で追加し山口の三ゴロで本封されたが一ノ瀬が選んで押し出し点を挙げ3点を奪った。だが、その後は七回まで出した走者は五回先頭の宮崎が死球。犠打二進後の後続が無くこの一度きり。

アイケンの初回は鶴我が四球。二盗とバントの二死三塁から松原と島田の短長打で2点を返した。その後、四回に島田が左中間打を放つも返球で二塁憤死や、六回には先頭の朝山の安打や四球で二死二塁を迎えたが無得点に終わり、土壇場の逆転劇だった。

【南原】打安点

⑥ 宮崎 義則	3	1	0
⑦ 長野 剛	1	0	0
⑤ 川原 雅敏	3	0	0
③ 大平 力	2	0	0
⑧ 田中 卓磨	3	0	1
② 上野 浩司	3	1	1
⑨ 山口 晃司	3	0	0
① 一ノ瀬 圭太	2	0	1
④ 田中 祐典	3	0	0
		23	2 3

【アイケン】打安点

⑧ 鶴我 公一	3	1	1
⑨ 朝山 俊也	3	2	1
① 當間 敦	3	0	0
② 松原 大樹	3	1	1
⑦ 島田 尚悟	2	2	1
⑤ 田中 登志夫	3	1	0
③ 向山 豪	3	0	0
④ 切間 勝	2	0	0
H 江口 慎也	0	0	0
R 城井 貴文	0	0	0
⑥ 林 孝太郎	3	0	0
		25	7 4

この対戦は6月の天皇賜杯予選(諫早)一回戦であって、南原が9-1コールドで勝利。その勢いで準決勝でも三菱重工を8-3で撃破。初の決勝進出したが親和銀行に0-2で敗退した。2年連続2度目の選手権は2勝を挙げて通算イーブン勝敗。

【準々決勝】ビッグN(第2試合) 振球犠盗失残併 開始 14:50

舩田グループ	000 000 0	0	1	0	1	0	1	2	0
三菱重工長崎	000 320 X	5	1	4	0	4	0	5	0

【舩田】打安点

⑧ 石田 考二	2	0	0
8 佐々野 裕樹	1	0	0
⑥ 江口 旭	3	1	0
⑨ 濱崎 新	3	0	0
⑤ 木下 寛輝	3	1	0
③ 原田 洋平	2	0	0
④ 大水 翔	2	0	0
4 舩田 裕太	0	0	0
② 岡本 介	2	0	0
① 湯川 紀之	2	0	0
⑦ 酒井 公大	2	0	0
		22	2 0

舩田グループは二回と七回、共に先頭打者が安打出塁するも後続が無く2走者を出したのみだった。対する三菱重工は初回の一死二塁の先制機を逸した後、中盤の四回に先頭平野の内野安打を口火に敵失と死球で満塁とし、代打大田の2点適時打に永尾のタイムリーで3点を挙げた。五回にも先頭の代打大場が中前打し、続く代打の中村も中前に。永田が四球の無死満塁から久米の左線2点打で5点差をつけた。県選手権に4年連続10回目出場の舩田グループは、2回目出場の平成7年(第45回)大会の二回戦で三菱重工と対戦。3-0とリードされた五回に1点を返すと、土壇場の七回裏に同点に追いつき延長無死満塁制を九回まで行って敗戦(8-12)したゲームがある。

【三菱重工】打安点

⑨ 島田 嶺	3	0	0
H 清水 優一郎	1	0	0
9 宮崎 剛	0	0	0
⑧ 福 翔馬	2	2	0
H 大場 慶太郎	1	1	0
8 榎園 将之	1	0	0
⑥ 平野 靖	1	1	0
H6 中村 勉	1	1	0
⑦ 永田 勝敏	2	0	0
③ 久米 聡史	3	1	2
⑤ 坂田 竜徳	1	0	0
5 原 征一郎	1	0	0
② 井芹 俊輔	1	0	0
H2 大田 智成	2	1	2
① 守田 和博	2	0	0
④ 永尾 竜太	3	1	1
		25	8 5



大会最終日の25日(月)は長崎市かきどまり野球場で準決勝、決勝の3試合を行なった。

準決勝第1試合は2年連続2回目出場で初のベスト4入りした瑞穂野球クラブ(県南)が、親和銀行に立ち向かったが5回をパーフェクトに抑えられ、守っては3回までに15点を奪われてコールド敗戦。準決勝第2試合はA級同士のアイケン医院と三菱重工長崎。七回まで両チー

ムとも得点機はあったが決め手を欠き、延長八回無死満塁制でアイケン医院がサヨナラ勝ちを収めた。

決勝戦は佐世保同士の対戦となり、親和銀行が二回に二死満塁から鳥越、木崎の連続適時打で3点を先行すると、アイケンも三回二死三塁に鶴我の中前打で追ったがその後の追加点が奪えず3-1で親和銀行が逃げきった。

【準決勝】かきどまり(第1試合) 振球犠盗失残併 開始 11:26

瑞穂野球クラブ	0 0 0 0 0	0	1	0	0	0	4	0	1
親和銀行	10 1 4 0 X	15	1	6	2	8	0	5	0

【二】古賀

親和銀行は初回に連続四球と野選の無死満塁から、下川の四球押し出し、内山の2点打、古賀の2点二塁打、大石のスライズ、打者一巡した二死二三塁に下川の2点打などで大量10点を奪った。二回は死球に二盗と内野ゴロの一死三塁に大石がバスターする小技で加点。三回にも古賀と鳥越の適時打に、連続タイムリーエラーが絡んで4点を挙げた。

瑞穂クラブは5回までに1三振、内野ゴロ5、内野飛3、外野飛6の15打者無走者のパーフェクトに抑えられて完敗した。

【瑞穂】打安点

⑥ 若杉 亮	2	0	0
⑦ 飯干 悟	2	0	0
③ 上田 貴士	1	0	0
3 布田 憲治	1	0	0
④ 古弘 真志	2	0	0
⑧ 大塩 学	2	0	0
① 松本 浩	1	0	0
1 座間味 功	1	0	0
⑨ 酒井 涼一	1	0	0
⑤ 米田 大地	1	0	0
② 野口 幸一	1	0	0
		15	0 0

【親和】打安点

⑨ 鳥越 章弘	2	1	2
⑤ 木崎 達也	3	1	0
④6 野村 健太郎	4	1	0
⑦ 下川 大輔	2	1	3
③ 内山 大輔	2	2	2
H3 向田 隆	1	0	0
② 古賀 太一	3	2	3
⑧ 桑原 隆	2	1	0
① 東川 賢輔	3	0	0
⑥ 大石 将人	1	0	2
H4 平野 晃一	1	1	0
		24	10 12

【準決勝】かきどまり(第2試合) 振球犠盗失残併 開始 13:00

三菱重工長崎	000 000 03	3	10	3	3	0	1	6	0
愛健会アイケン医院	000 000 04x	4	6	0	2	0	0	4	0

(延長8回無死満塁制)

【二】島田、久米、林

七回までの得点機は重工に三回先頭の大場が中前打。永尾のバントと原の二ゴロで三塁まで進んだが島田は三振。四回も四球の先頭打者をバントで二進させ期待の永田と大田が二飛と三振。六回には一死後に島田が左越え二塁打しバントで三進するも主軸の平野が三振。アイケン先発の當間は七回までに強打の重工から9三振を奪ってピンチを凌いだ。

アイケン打線も重工の山口が打てずに七回まで散發の2安打。得点機は四回一死後に朝山の安打が初走者。當間の投前バントを一塁手が失した一死一三塁も中軸の松原と島田が連続三振を喫した。

無死満塁制の重工は、三走が捕手牽制球に刺された一死一二塁に代打久米が右線二塁打。さらに二三塁で永尾が中前に、原も右前に3連続適時打。上位に戻って島田が歩いて一死満塁。ここで三本間で永尾が挟殺された後に福が四球。ここでアイケンの當間が平野に対し渾身の投球で三球三振に仕留めて3点どまりに抑えた。

【三菱重工】 打安点

⑨ 島田 嶺	3	1	0
⑧ 福 翔馬	1	0	0
⑥ 平野 靖	3	0	0
③ 永田 勝敵	3	0	0
② 大田 智成	3	1	0
① 山口 幸	3	0	0
⑦ 大場慶太郎	2	1	0
H 久米 聡史	1	1	1
④ 永尾 竜太	2	1	1
⑤ 原 征一郎	3	1	1
			24 6 3

【アイケン】 打安点

⑧ 鶴我 公一	3	1	0
⑨ 朝山 俊也	3	1	0
① 當間 敦	2	0	0
② 松原 大樹	3	0	0
⑦ 島田 尚悟	3	0	0
⑤ 田中登志夫	3	0	0
③ 向山 豪	2	0	0
H 江口 慎也	1	1	1
④ 切間 勝	2	0	0
H 城井 貴文	0	0	1
⑥ 林 孝太郎	3	1	2
			25 4 4

アイケンの無死満塁制は代打攻勢。江口が2-0からの4球目を左に弾きまず1点。城井も2-1から、左犠飛で1点差の一二塁に林が二者を還す二塁打を放って、熱戦にケリをつけた。

【決勝】 開始 15:12 振球犠盗失残併

親和銀行	030 000 000	3	5	4	1	0	1	9	1
愛健会アイケン医院	001 000 000	1	5	0	1	0	2	2	1

【親和】 打安点

⑨ 鳥越 章弘	5	2	1
⑤ 4 木崎 達也	5	2	2
⑥ 野村健太郎	4	2	0
⑦ 下川 大輔	4	0	0
③ 内山 大輔	4	0	0
② 古賀 太一	1	0	0
H2 吉田 光太	1	0	0
⑧ 桑原 隆	3	1	0
① 東川 賢輔	1	0	0
H 向田 隆	1	0	0
1 林田 大輔	2	0	0
④ 大石 将人	3	0	0
5 平野 晃一	0	0	0
			34 7 3

二回の親和銀行は連投のアイケン當間に対し死球と遊ゴロ悪送球に四球で二死満塁と攻め立て鳥越の左前打で先制。さらに木崎が右前に2点適時打を放ってリードを広げた。その後は三回と八回を除いて安打や死四球に敵失などの走者を四度も得点圏内に置いたが効果打が出なかった。

アイケン医院は三回、先頭で安打の向山がバントと二ゴロで三進し、鶴我の中前打で反撃を開始したが、四回から登板した親和銀行エースの林田の直球が冴えて、四回と九回に安打が出るも二進できずに抑えられ粘投した投手陣を援護することができず親和銀行に逃げ切られた。

【個人賞】

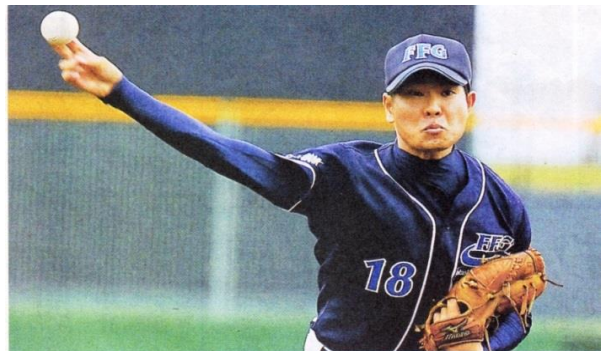
- ◇平井清光賞(最高殊勲選手賞) = 木崎達也(親和)
- ◇優秀選手賞 = 内山大輔(親和)
- ◇優秀投手賞 = 東川賢輔(親和)
- ◇敢闘賞 = 當間敦(アイケン)



2年連続20回目優勝した親和銀行のナイン



準優勝の愛健会アイケン医院のナイン



6回を2安打無失点で抑えた親和銀行の林田

投手 回 打安振球責

東川	3	11	2	1	0	1
林田	6	19	2	4	0	0
當間	5	23	5	1	3	2
城井	4	16	4	4	1	0

実力発揮 納得の戦い 「県内無敗」続く

〇…下馬評通りの実力を発揮し連覇を飾った親和銀行。今大会を制し、2年連続で「県内公式戦無敗」を達成した。

決勝も序盤にリードを奪う理想の展開。四回から登板し、6回を2安打無失点に抑えたエースの林田は「主力の多くが千葉県国体で延長23回の試合を経験し精神的に強くなった。きょうも余裕を持って戦えた」と納得の表情を浮かべた。

メンバーにとってこの優勝には大きな意味があった。11年間チームを支えてきた35歳の平野が今大会で引退。「優勝で最後の花道を飾ろう」を相言葉に、いつにも増して団結した。最終回二死から三塁の守備についた。最後の打球はそのベテランの元へ転がった。「(最後は)出来過ぎです。悔

いは全くない。後輩には日本一を目指して欲しいですね」。グラウンドであふれる涙をこらえ現役最後をしっかりと締めくくった。

▽本文と写真3枚は10月26日付けの長崎新聞より転載▽

平成22年に開催されたその他の競技会の戦績

天皇賜杯第65回県予選 6/19～諫早ほか

たちばな信用金庫(諫早)	8
島原トータス(島原)	1
福江球友会(福江)	8 棄
波佐見ホワイトスターズ(東彼)	0
鹿町バンビーズ(県北)	0
親和銀行(佐世保)	8
松浦ベイスターズ(松浦)	棄
東海クラブ(老岐)	棄
南原(大村)	9
愛健会アイケン医院(佐世保)	1 6
A L L 生月(平戸)	4 0
舛田グループ(上五島)	2
三菱重工長崎(長崎)	6
巖原マリナーズ(対馬)	1
池島クラブ(西海)	2 棄
松尾総業野球クラブ(県南)	4

第2日(二回戦、準決勝)が雨天中止となり順延したことにより棄権チームが続出した

第32回西日本1部予選 3/27～島原ほか

中興化成工業(松浦)	0
彼杵スラッガーズ(東彼)	2 0
吾妻野球クラブ(県南)	2
グランドスラム(県北)	0
たちばな信用金庫(諫早)	2 5
舛田グループ(上五島)	2
巖原マリナーズ(対馬)	1
西龍クラブ(平戸)	4 1
TEAM橋口(大村)	2
西部ガス長崎(長崎)	1
Z E R O(西海)	4 5
西海クラブ(佐世保)	4 3
奈留野球クラブ(福江)	1

第32回西日本2部予選 3/21～佐世保

東海クラブ(老岐)	7
福江クラブ(福江)	6 6
上五島ワイズ(上五島)	1
美津島ポパイ(対馬)	棄
陸自竹松(大村)	0
西海BLOOD(西海)	3 7
長崎上下水道局(長崎)	5
島原トータス(島原)	4
瑞穂野球クラブ(県南)	1 11
波佐見フェニックス(東彼)	3 3
アペックス(松浦)	4
ビッグスター(諫早)	8
ナインズ(県北)	1 3
FLYFISH(平戸)	0 10
県立大軟式野球部(佐世保)	7

天皇賜杯第65回全日本 9/17～：東京都

【一】 0-2 日立オートモティブシステムズ 厚木(神奈川県)

親和銀行	000 000 000	0
日立オートモティブ	000 110 00X	2

第32回西日本大会1部 5/7～：山口県

【一】 5-9 末森クラブ(香川)

第32回西日本大会2部 6/4～：佐賀県

【一】 2-3 下永病院(広島)

高松宮賜杯第54回1部 6/5～波佐見

中村クラブ(大村)	2
グランドスラム(県北)	5 3
舛田グループ(上五島)	11 4
西龍クラブ(平戸)	7 0
松浦ベイスターズ(松浦)	5
巖原NYビーンズ(対馬)	4 2
たちばな信用金庫(諫早)	6
エンジェルズクラブ(佐世保)	1
池島クラブ(西海)	3 3
彼杵スラッガーズ(東彼)	12
奈留野球クラブ(福江)	3
長崎県支払基金(長崎)	12 4
南串野球部(県南)	1

【決】

支払基金	000 001 0	1
たちばな	000 150 X	6

九州ブロック大会(大分)で宮崎に敗退したが、口蹄疫問題で辞退したため全国大会へ

高松宮賜杯第54回2部 6/5～平戸、鹿町

コハレントマテリアル長崎(東彼)	1
オール江迎(県北)	2 8
上対馬メッツ(対馬)	3 1
海自・大村(大村)	2
野球屋吉井クラブ(諫早)	9
おじんクラブ(平戸)	0 2
千々石野球クラブ(県南)	2 4
東海クラブ(老岐)	3
チーム錨(福江)	4
Team.B.(松浦)	4 3
Ageha(佐世保)	2
長工クラブ(長崎)	9
西海BLOOD(西海)	0 4
デビルレイズ(上五島)	0 3
島原トータス(島原)	1

【決】

東海ク	000 000 000	0
長工ク	000 014 00X	5

九州ブロック大会が長崎のため全国大会へ

第62回県民体育大会 11/13～長崎

(佐世保) 県立大軟式野球部	2
(大村) TEAM橋口	4 3
(五島) 福江球友会	2 0
(南島原) 南有馬クラブ	1
(老岐) 勝本北星	2
(雲仙) 瑞穂野球クラブ	3 3
(諫早) 森山クラブ	4 4
(北松浦) 佐々町体協野球部	3
(対馬) 巖原マリナーズ	3
(平戸) A L L 生月	5 3
(東彼杵) 彼杵スラッガーズ	2 2
(島原) 島原トータス	1
(長崎) 長崎県支払基金	0
(南松浦) 新上五島町	1 1
(西海) 池島クラブ	1 0
(松浦) 松浦ベイスターズ	2

第33回九州選手権 5/15～：鹿児島

三菱重工長崎
 【一】 9-5 アクセスジャパン(福岡)
 【二】 3-2 博愛病院(大分)
 【準】 0-2 田中病院(宮崎)
 親和銀行
 【一】 1-2 鹿児島相互信用金庫

高松宮賜杯【1部】全日本 9/10～京都府

【一】 6-5 中村メッツOBクラブ(開催地)

中村メッツ	000 000 010 030 01	0
たちばな	000 000 100 030 02x	2

【二】 3-6 BLAVERS(兵庫)

たちばな	011 010 000	3
BLAVERS	221 000 01X	6

高松宮賜杯【2部】全日本 10/15～秋田県

【一】 4-12 チロリンズ(長野)

チロリンズ	050 321 010	12
長工クラブ	010 000 003	4

第14回西日本選手権予選 :佐世保

三菱重工長崎が優勝

第14回西日本選手権 10/30～：沖縄県

【一】 0-10 青樹会病院(滋賀)

第6回日本マスターズ予選 6/5～島原

コーカスクラブ(長崎)	0
ヨシイスポーツクラブ(諫早)	4 0
福江クラブ(福江)	5 3
島原壮年(島原)	3 6
波佐見フェニックス(東彼)	3 5
美津島ニューヘアース(対馬)	4 4
アングルボーイズ(老岐)	0 2
佐世保西海クラブ(佐世保)	4

【決】	福江	000 201 03	6
	美津島	000 020 12	5

※福江クラブは九州ブロックで敗退

第18回県成年大会 10/16～:五島

福江クラブ(福江)	7
佐世保西海クラブ(佐世保)	棄 0
ヤンキース(長崎)	2 1
松浦壮年クラブ(松浦)	4 1
メンフツ福江(福江)	1 1
波佐見フェニックス(東彼)	3 5
ヨシイスポーツクラブ(諫早)	0

第27回全日本少年予選 5/22～島原、西有家

吾妻中クラブ(県南)	2
彼杵中クラブ(東彼)	0 1
桜が原中クラブ(大村)	4 0
長与第二中クラブ()	0 1
島原有明中クラブ(島原)	1 1
西海北中クラブ(西海)	0 2
石田中クラブ(老岐)	1 1
西有家中クラブ(県南)	1 3
厳原ウインズ(対馬)	0 1
小島中クラブ(長崎)	3 2
佐々中学校クラブ(県北)	2 2
森山中クラブ(諫早)	1 1
早岐中クラブ(佐世保)	2

※島原有明中クラブは九州ブロックで敗退

第2回全日本少年春季 10/16～島原

御厨中クラブ(松浦)	4
高田中クラブ()	2 3
佐々中クラブ(県北)	0 1
大島中クラブ(西海)	0 2
島原二中クラブ(島原)	4 1
仁田中クラブ(対馬)	0 2
平戸中クラブ(平戸)	6 6
川棚中クラブ(東彼)	12 3
早岐中クラブ(佐世保)	10 2
石田中クラブ(老岐)	0 7
横尾中クラブ(長崎)	1 4
玖島中クラブ(大村)	2 3
森山中クラブ(諫早)	1 4
三井楽中クラブ(福江)	1 0
小浜中クラブ(県南)	3

第39回県少年選手権 8/21～西海

大瀬戸中クラブ(西海)	4
高田中学校()	6 0
平戸中クラブ(平戸)	5 2
岐宿中学校(福江)	3 1
日野中クラブ(佐世保)	7 10
小ヶ倉中クラブ(長崎)	2 0
石田中クラブ(老岐)	0 1
高来中学校(諫早)	2 1
小値賀中クラブ(県北)	0 0
桜が原中クラブ(大村)	0 3
吾妻中クラブ(県南)	2 6
深堀中クラブ(長崎)	1 1
西海南中クラブ(開催地)	2 2
小佐々中クラブ(佐世保)	3 3
諫早中クラブ(諫早)	4 6
西有家中クラブ(県南)	3 3
志佐中学校(松浦)	2 4
福田中クラブ(長崎)	5 2
波佐見中クラブ(東彼)	4 1
奈良尾中クラブ(上五島)	0 4
厳原ウインズ(対馬)	0 0
島原有明中クラブ(島原)	2 7
早岐中クラブ(佐世保)	6

準決勝・決勝の3試合はビッグNで開催

第65回国民体育大会 ゆめ半島千葉国体 9/26～:袖ヶ浦市ほか6会場

県選抜チームを編成して3年目。

今回は親和銀行(10名)、三菱重工長崎(5名)、アリアケジャパン(1名)から選抜したメンバーで九州国体の代表決定戦で、福岡を延長12回1-0勝利して、2年前の大分国体以来の本国体出場を遂げた。

◆監督兼選手=中村勉(三)◆選手=木崎達也、東川賢輔、林田大輔、古賀太一、吉田光太、野村健太郎、内山大輔、桑原隆史、下川大輔、鳥越章弘(親)、山口宰、石川章孝、平野靖、永田勝敏(三)、久保智明(アリアケ)

投手陣は沈着冷静でナインの信頼が厚い林田を軸に、気迫で投げ込む山口、直球が冴える東川、貴重な左腕の久保。攻撃は俊足の1番鳥越が出塁すると、福岡戦で決勝の適時打を放った2番の木崎や野村、下川、石川の中軸でかえす。しっかり守ってリズムをつくり走者が出ると高いバウンドのゴロでチャンスを広げ、得点へつなげていくしぶとさが持ち味のチーム。=9月10日付け長崎新聞記事より引用=

【一回戦】9/26 (延長23回)

福井(セーレン)	000 000 000 000 000 000 000 31	4
長崎県選抜	000 000 000 000 000 000 000 30	3

鈴木、中田-石本
林田、山口-吉田、古賀

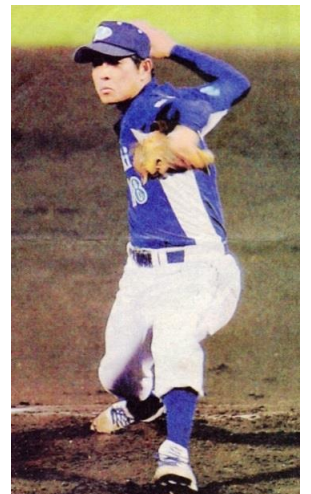
試合時間は6時間1分。福井は昨年のお天賜杯大会を制したセーレンの単独チーム。

試合は両先発投手が好投し、バックもよく守ってスコアボードにゼロが並んだ。延長15回が終わったところで日没に備えいったん中断。会場を袖ヶ浦市今井野球場から照明設備のある同市総合運動公園野球場に移して再開した。

小雨が降る中の熱戦は延長22回に動き、福井が3点を挙げ試合は決まったかに思われた。しかし長崎は「おれたちは絶対勝つ。楽しんでやろう」と声を掛け合い、あきらめる気配はない。その裏2四死球から中村、鳥越の内野安打で1点。さらに二死後に下川の死球や内山の内野安打で同点に追いついた。

23回には福井に決勝点を奪われたが、実質的にチームを指揮した親和銀行の原田和寛監督は「みんなの気持ちは最後まで途切れなかった。それぞれの野球人生の財産になり、長崎国体に向けてもいい経験になった」とたたえた。22回を投げ抜いた林田も「頑張ればいつかは勝てると思った。この経験を糧にしたい」と自信をつけていた。

(本文と写真は9月27日付けの長崎新聞より引用)



22回を力投した長崎の先発 林田大輔投手(親和銀行)

福井は二回戦で茨城に1-3(延長12回)で敗退。大会第2日が悪天候中止により決勝戦と順位決定戦は行わず、優勝は千葉と京都で分けた。

国民体育大会軟式野球競技について

昭和21年に京都府で第1回国民体育大会が開かれ、全国を16ブロックに分け軟式野球競技が行なわれた。第2回と第3回は8チーム参加で、第4回以降は23チーム以上となり九州枠は3となった。一般準硬式の部も第10回から行なわれたが、第29回(49年)大会を最後に廃止された。

長崎県で開催されたのは第24回(44年)大会で、開催地枠でブロック予選を経ずに、三菱重工長崎と長崎県庁(準硬)が出場。県勢として軟式5回目の出場で初勝利を挙げた三菱重工が3勝してベスト4進出まで成し遂げた。

一巡した第43回(63年)京都国体から、成年の部が1部と2部に分けられた。翌年(H.元年)の北海道国体から1部が28から16チームに、2部は16チーム。この年から始まった壮年の部は12チーム参加と一新された。3部とも九州枠は2で、九州8県のミニ国体で2勝と本国体が狭き門となる。

第50回(H.7)福島国体から支部内登録に関係なく補強等を含めた選抜チーム編成ができるようになり、平成11年から成年1部が一般A、2部が一般B、壮年が成年の部と呼称変更があった。

そして知事会の要望により国体の参加人員が削減されることになり、660人(15人×44チーム)の3部門が、1部門だけとなり、第63回(H.20)大分国体から一般A、Bが統合され一般32チーム、成年の部は廃止された。

その大分国体年に始めて『長崎県選抜』チームで九州ミニ国体に臨んだ本県チームは、見事本国体出場を果たした。

回	年度	開催地	本県代表チーム	試合	スコア	相手
10	S. 30	神奈川	長崎刑務所	【一】	0-2	福島
13	33	富山	住友潜龍鉦業所	【二】	0-4	愛媛
17	37	岡山	西肥自動車	【一】	3-5	茨城
21	41	大分	藤岡石油店	【一】	0-1	三重
24	44	長崎	三菱重工長崎	【一】	1-0	岐阜
				【二】	2-1	石川
				【準々】	1-0	群馬
				【準】	0-1	神奈川
				【三位】	0-3	静岡
		(準硬)	長崎県庁	【二】	0-2	愛知
25	45	岩手	親和銀行	【一】	2-1	山形
				【二】	1-0	群馬
				【準々】	2-1	京都
				【準】	1-3	長野
				【三位】	0-1	神奈川
26	46	和歌山	親和銀行②	【一】	10-0	岩手
				【二】	1-2	石川
27	47	鹿児島	三菱重工長崎②	【一】	1-3	秋田
28	48	千葉	親和銀行③	【一】	0-2	長野
29	49	茨城	松早石油店	【一】	1-2	青森
30	50	三重	親和銀行④	【一】	3-4	群馬
33	53	長野	親和銀行⑤	【一】	2-4	福島
34	54	宮崎	長崎日野自動車	【一】	4-1	福井
				【二】	2-0	群馬
				【準々】	0-6	千葉
35	55	栃木	長崎日野自動車	【一】	2-3	茨城
39	59	奈良	三菱重工長崎③	【一】	3-2	千葉
				【二】	1-2	北海道
40	60	鳥取	親和銀行⑥	【一】	4-0	石川
				【二】	8-0	徳島
				【準々】	4-0	奈良
				【準】	3-2	東京
				【決】	0-5	鳥取
42	62	沖縄	親和銀行⑦	【一】	1-3	山梨
43	63	京都	親和銀行⑧	【一】	4-0	山形
				【二】	3-1	京都
				【準々】	2-1	長野
				【準】	0-4	宮崎
46	H. 3	石川	親和銀行⑨	【一】	1-2	石川
50	7	福島	親和銀行⑩	【一】	1-0	石川
				【二】	4-1	福島
				【準】	2-1	奈良
				【決】	0-2	大阪
57	14	高知	親和銀行⑪	【一】	1-5	高知
63	20	大分	長崎県選抜	【一】	4-2	栃木
				【二】	2-3	大分
65	22	千葉	長崎県選抜	【一】	3-4	福井

◆成年2部(一般B)および壮年(成年)は本国体の出場なし◆